

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

現	金	当	座	預	金	未	収	入	金	備	品
受	取	手	形	売	掛	金	貸	倒	引	当	金
車	両	運	搬	具	備	品	減	価	償	却	累
未	払	金	前	受	金	償	却	債	権	取	立
受	取	利	息	固	定	資	産	売	却	益	減
発	送	費	貸	倒	損	失	固	定	資	産	売
											却
											損
											支
											払
											利
											息

①平成26年1月14日に購入した備品(取得原価¥360,000、残存価額ゼロ、耐用年数8年、定額法で計算、間接法で記帳)が不用になったので、本日(平成30年3月20日)¥140,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。

②販売目的の中古自転車を¥90,000で購入し、代金は翌月10日に支払うこととした。また、その引取運送費として¥2,000を現金で支払った。なお、当店は自転車販売業を営んでいる。

③当期の平成30年9月20日に、得意先愛媛商店が業績不振により倒産した。愛媛商店には、平成30年4月1日に商品¥50,000を販売し代金は掛けにしている。なお、前期末決算において貸倒引当金は¥30,000設定をしている。決算日は12月31日である。

④前期の決算において未収利息¥36,000を計上していたので、本日(当期首)、再振替仕訳を行った。

⑤本日、大阪商店に対する買掛金¥800,000および売掛金¥300,000の決済日につき、大阪商店の承諾を得て両者を相殺処理するとともに、買掛金の超過分は那覇商店振出しの約束手形を裏書譲渡した。

第2問 (8点)

下記に示した勘定記入は分記法によるものである。3分法により処理した場合の記入に改め、損益勘定以外の各勘定を締切りなさい。なお、売上原価の計算は仕入勘定にて行うものとする。また、勘定への記入は日付の記入を行うとともに、必ず日付順に記入を行うこと。

商		品	
1/1 前期繰越	60,000	1/10 売掛金	85,000
7 買掛金	50,000	12 買掛金	7,000
16 売掛金	20,000	20 現金	58,000
18 支払手形	88,000	25 受取手形	21,500
		31 次月繰越	46,500
	218,000		218,000

商品売買益			
1/16 売掛金	7,000	1/10 売掛金	35,000
31 損益	51,500	20 現金	15,000
		25 受取手形	8,500
	58,500		58,500

損		益	
		1/31 商品売買益	51,500

第3問

次の資料 (A) と資料 (B) にもとづいて、答案用紙の試算表を完成しなさい。

資料 (A)

貸借対照表

平成 X1 年 1 月 1 日

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	60,000	支 払 手 形	46,000
当 座 預 金	135,000	買 掛 金	113,000
受 取 手 形	80,000	未 払 金	42,000
売 掛 金	150,000	借 入 金	150,000
貸 付 金	100,000	貸 倒 引 当 金	5,000
有 価 証 券	65,000	減 価 償 却 累 計 額	72,000
商 品	54,000	資 本 金	336,000
備 品	120,000		
	764,000		764,000

資料 (B)

(1) 現金の増減		j 貸付金の返済	¥ 60,000
a 現金売上高	¥ 25,000	k 貸付金利息の受取	¥ 2,400
b 当座預金の預入高	¥ 35,000	l 前期に購入した有価証券代金の支払い高	
c 当座預金の引出高	¥ 28,000		¥ 25,000
d 売掛金の回収高	¥ 43,000	(3) 商品の仕入高	
e 地代の支払い高	¥ 31,000	a 小切手による仕入高	¥ 22,000
f 給料の支払高	¥ 18,000	b 掛けによる仕入高	¥ 184,000
g 水道代の支払い高	¥ 7,500		このうち戻し高 ¥ 7,000
		c 手持ち約束手形の裏書譲渡による仕入高	
(2) 当座預金の増減			¥ 25,000
a 現金の預入高	¥ 35,000	(4) 商品の売上高	
b 現金の引出高	¥ 28,000	a 現金による売上高	¥ 25,000
c 手形代金の支払い高	¥ 36,000	b 掛けによる売上高	¥ 314,000
d 売掛金の回収高	¥ 148,000		このうち返品高 ¥ 9,500
e 買掛金の支払い高	¥ 54,000	c 約束手形の受け入れによる売上高	
f 手形の割引高	¥ 29,000		¥ 106,000
(額面 ¥30,000 の手形を割り引いた手取額)		(5) その他の取引	
g 有価証券の売却代金	¥ 31,000	a 得意先の倒産による売掛金の残高	
(帳簿価額 ¥25,000 の有価証券の売却代金)			(前期売上計上分) ¥ 4,500
h 小切手振出による仕入れ	¥ 22,000	b 社債の購入	¥ 27,000
i 備品の売却代金	¥ 15,000		(代金は現金払いとする)
(取得原価 ¥40,000、減価償却累計額 ¥30,000 の備品の売却代金)			

第4問 (10点)

次の文の(ア)から(ケ)に当てはまる適切な語句を漢字で答えなさい。

1. 財務諸表のうち、一企業における会計期間の経営成績を示す表のことを(ア)という。また、収益から費用を差引いて算出される最終的な利益が、(イ)である。
2. 帳簿には、(ウ)と(エ)があり、(ウ)は必ず作成しなければならない帳簿で、取引を日付順に記入する(オ)と勘定口座ごとに記入する(カ)がある。必要に応じて作成する(エ)において、商品の在庫管理・原価管理を行う帳簿は(キ)といい、日商簿記3級の範囲においての払出単価の決定方法は、(ク)と(ケ)がある。

第5問 (32点)

次の【決算整理事項等】にもとづいて、CMC商店の精算表を完成しなさい。
なお、会計期間は平成30年1月1日から12月31日までの1年間である。

【決算整理事項等】

- 12月中に従業員が立替払いした旅費交通費は¥6,000であったが未処理であった。
なお、当店では従業員が立替払いした旅費交通費を毎月末に未払金として計上したうえで、従業員には翌月に払っている。
- 決算日における現金の手許有高は¥610,000であった。帳簿残高との差額のうち¥8,500については通信費の記入漏れであることが判明したが、残額については原因不明なので、雑損または雑益として処理する。
- 12月1日に、土地¥400,000を購入し、代金は2ヵ月後に支払うことにした。
購入時に以下の仕訳をしていたので、適正に修正する。
(借方) 土地 400,000 (貸方) 買掛金 400,000
- 12月末にすべての車両運搬具を¥220,000で売却したが、受け取った代金を仮受金として処理しただけである。そこで決算にあたり適切に修正する。なお、車両運搬具は定額法(耐用年数9年、残存価額ゼロ)により減価償却を行う。
また、建物については、定額法(耐用年数40年、残存価額ゼロ)により減価償却を行う。
- 期末商品の棚卸高は¥275,000であった。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
- 水道光熱費の決算日までの見越額が¥12,000である。
- 支払利息のうち、¥1,500を繰り延べる。
- 決算整理前残高試算表の受取地代は来期2ヵ月を含む14ヵ月分であるため、月割りにより適切な金額を繰り延べる。